

臨地実習 (プライマリ・ケアNP)

[実習] 2年 通年 選択 180時間 4単位

《担当者名》塚本 容子 (デ) [yokot88@hoku-iryō-u.ac.jp]

【概要】

講義・演習で学修した知識・技術を基に、医師のスーパーバイズの下で臨床現場にて実践する。この実習では、ヘルスアセスメント・ヘルスプロモーション・疾病予防に焦点を当てて行う。その中で、特に臨床推論を用いた鑑別診断及びフィジカルイグザミネーションのスキルを向上することを目的とする。

【学修目標】

1. 地域住民に対して、特定検診や人間ドックを通じて包括的ヘルスアセスメントを実施することができる。
2. 継続的に受診している患者に対して包括的ヘルスアセスメントを実施することができる。
3. 突発的な症状を呈している患者に対して包括的ヘルスアセスメントを実施することができる。
4. 包括的ヘルスアセスメントを実施する中で、基盤となる臨床解剖学・病理学・生理学について、実習で担当した患者の事例を振り返りながら理解することができる。
5. 包括的ヘルスアセスメントの実施後、臨床推論を用いて治療マネジメント、疾患予防に関する治療計画及びヘルスプロモーションのプランを作成することができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
	【実習方法】	指導教員の下、個人の実習課題、到達目標を鑑みながら明確にし、実習計画を立案し実習を行う。実習終了後には、実習計画内の自己目標の到達度についての今後の課題を明確にしながらいレポート作成する。実習先では、実習指導者の指導・助言のもとに実習を行う。実習後、レポートを基にプレゼンテーションを行う。	塚本
	【実習内容】	実習の内容は、実習目標到達を目指して以下の項目に焦点を置き実施し、実施した内容を診療録として簡潔にまとめることができるようにする。また、10例のケースレポートを作成し提出する。 1. 医療面接、フィジカルイグザミネーションを実施し、医師の指導の下、臨床推論を用いて医学的診断、治療計画を立てる。 2. ヘルスアセスメント結果を患者にわかりやすく説明、そして今後の治療計画を患者と協働して作成する。 3. 上記1、2について、診療録としてSOAP形式で記載する。 4. 実際の患者の事例をもとに作成したケースレポートを基に、臨床解剖学、病理学、病態生理学、薬理学の視点から、演習形式で学修を深める。 5. 10例のレポートについては、内容について指定はしないが、それぞれの事例で学修したテーマを1つ定め文献等で深め、レポートを作成する。	塚本
	【実習場所・指導者】	北海道医療大学病院 医師・森谷 満 手稲溪仁会病院 医師・小嶋 一	塚本
	【実習期間】	実習日程は課題達成状況と施設の状況により適宜検討するが、期間は4週間から6週間とする。	塚本

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【評価方法】

実習課題の達成状況（観察評価）60%、レポート・プレゼンテーション40%

【教科書】

特に指定なし

【参考書】
適宜提示する

【学修の準備】
必要な文献・資料を熟読しておくこと。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】
本科目の内容は、看護学における高度な専門性と研究能力を修得するという看護学専攻博士前期（修士）課程のディプロマ・ポリシーに適合している。